

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：14401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2023

課題番号：21K21189

研究課題名（和文）前頭側頭型認知症におけるごみ屋敷の成因の探索

研究課題名（英文）An exploratory study of the causes of trash house in frontotemporal dementia

研究代表者

埴卒 大喜（Taomoto, Daiki）

大阪大学・医学部附属病院・医員

研究者番号：60906725

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：研究1・2：日本語版CDR plus NACC FTLDを作成して、前頭側頭型認知症(FTD)29名、アルツハイマー型認知症(AD)21名を対象とした評価を行い、良好な信頼性、妥当性、反応性を確認した(Taomoto D, et al. 2023)。
研究3：ためこみ症状の評価尺度であるClutter Image Rating(CIR)を実施した。CIRはFTDで平均(SD)：1.78(0.99)、ADで1.63(0.86)でいずれもカットオフの4を下回り、2群間で有意差はなかった。この理由として本研究は介護者がいる患者、もしくは入院している患者を対象としたことが考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本語版CDR plus NACC FTLDの有用性を確認できたことにより、今後の本邦でのFTDを対象とした観察研究や治療で日本語版CDR plus NACC FTLDを活用することが可能となった。FTDにおけるごみ屋敷では生活環境が影響していることが示唆されたため、今後は独居や同居だが家族が困難を抱えている症例などを組み込んだ研究が重要と考えられた。

研究成果の概要（英文）：Studies 1 and 2: The Japanese version of the CDR plus NACC FTLD was developed. The reliability, validity, and responsiveness of the Japanese version of the CDR plus NACC FTLD were assessed in 29 patients with frontotemporal dementia (FTD) and 21 patients with Alzheimer's dementia (AD), and good reliability, validity, and responsiveness were confirmed (Taomoto D, et al. 2023).

Study 3: The Clutter Image Rating (CIR), a rating scale for hoarding symptoms, was also assessed; the CIR for FTD and AD was 1.78 (0.99) (mean (SD)) and 1.63 (0.86), both below the cut-off of 4, with no significant differences between the two groups. A possible reason for this is that this study included patients with a caregiver or who were hospitalised.

研究分野：老年精神医学、神経心理学

キーワード：前頭側頭型認知症 意味性認知症 進行性非流暢性失語 ためこみ症 ごみ屋敷 frontotemporal dementia hoarding disorder trash house

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

前頭側頭型認知症(frontotemporal dementia; FTD)は前頭葉と側頭葉の神経細胞に変性、脱落がみられる変性疾患の包括的臨床概念であり、特徴的な人格、行動の障害、言語障害を呈するため、社会的に問題となる症例が存在することが報告されている。特に高齢者の独居率が高まった昨今では、独居が可能な初期 FTD 患者の自宅がゴミ屋敷になってしまうという問題も顕在化するようになった。DSM-5 にて新たに「ためこみ症」という疾患概念が導入され、ものため込みについて医学的にも対応の必要性が指摘されるようになったが、FTD に伴うこの問題に関する知見は現時点でほとんどない。

2. 研究の目的

(1) FTD の重症度評価尺度 CDR® plus National Alzheimer's Coordinating Center Frontotemporal Lobar Degeneration (CDR® plus NACC FTLD)の日本語版を作成し、信頼性、妥当性、反応性を検証し、(2) FTD におけるため込みの実情とその要因を明らかにし、(3) FTD におけるため込みへの介入法を検討することを目的とした。

3. 研究の方法

研究1：日本語版 CDR® plus NACC FTLD の作成

英語原版 CDR® plus NACC FTLD の著作者である Knopman らに日本語版作成について許可・協力を得たのち、Wild et al. 2005 による ISPOR タスクフォースによる尺度翻訳に関する基本指針に従い、日本語版 CDR® plus NACC FTLD を作成した。

研究2：日本語版 CDR® plus NACC FTLD の信頼性、妥当性、反応性の検証

大阪大学医学部附属病院神経科精神科、日本生命病院精神科、浅香山病院精神科を受診し、FTD、アルツハイマー型認知症(Alzheimer's disease; AD)と診断された患者を計 50 例リクルートし、登録時及び半年後、1 年後に下記の評価を実施した。尺度評定の COSMIN チェックリストに基づき、研究1で作成した日本語版 CDR® plus NACC FTLD の信頼性、妥当性、反応性を検証した。

- ・基本情報：年齢、性別、罹病期間、教育年数
- ・認知症の重症度評価：CDR®、CDR® plus NACC FTLD
- ・行動障害の評価：Neuropsychiatric Inventory, Stereotypy Rating Inventory(SRI)
- ・認知機能：Mini-Mental State Examination(MMSE), Western Aphasia Batter(WAB)

研究3：FTD におけるため込みの実態とその要因の検証

研究2と並行して、同一対象に対し、自宅の散らかりの程度を9つの写真の中から選ぶ、ためこみ症状の写真評価尺度である Clutter Image Rating (CIR)(図1)を実施し、FTD、ADでの違いを評価した。研究2で挙げた評価項目とCIRの関係を調べ、ため込みの要因を検討した。



図1 Clutter Image Rating

4. 研究成果

研究1：日本語版 CDR® plus NACC FTLD の作成

図2の通り、日本語版 CDR® plus NACC FTLD を作成した。

スコア	0 (健常)	0.5 (疑い)	1 (軽度)	2 (中等度)	3 (重度)
行動、態度、人格	社会的に適切な行動	態度、共感性、行為の適切さの変化が疑わしい 日常生活では気づかれないが、特殊な環境・状況(冠婚葬祭など)に限定してこれらの変化を認める。 例：葬儀の場で過剰に陽気にふるまうなど、場にそぐわない行動をする。	軽度ではあるが明らかな行動変化 日常生活でもこれらの変化が見られるが、対人関係や対人交流に影響を及ぼすほどではない。 例：他の人が食卓に座るのを待たずに食事を先に食べ始める。	対人関係や対人交流に大きな影響を及ぼす中等度の行動変化 周りの人の言うことを聞くこともあるが自分のやりたいことを行う。 例：他の人の活動を妨げたとしても、毎日同じ時間に昼食を取ることにこだわる。	対人交流がすべて一方向性となる重度の行動変化 周りの人の言うことや考えていることに全く構わずに行動する。
言語	言語に問題はない、もしくは、時折生じる軽度の喚語困難 例：自分がその言葉を知っていて、のどまで出かかっているのに思い出せないことがある	少なくとも以下の1つ以上を認める。 一貫した軽度の喚語困難；使用する言葉の単純化；表現の迂遠化；発話文の長さが軽度に減少；軽度の理解障害	少なくとも以下の1つ以上を認める。 中等度の喚語困難；日常生活での呼称障害；発話文の長さが明らかに減少、および/もしくは、文法的に正しい発話の減少；会話や読みでみられる理解障害	意思を疎通するのが難しい中等度～重度の発話障害もしくは理解障害；書字での意思疎通はやや保たれていても良い	少なくとも以下の1つ以上を認める。 重度の理解障害；了解不可能な発話

図2 日本語版 CDR® plus NACC FTLD

研究2：日本語版 CDR® plus NACC FTLD の信頼性、妥当性、反応性の検証

検査者間・検査者内信頼性の検証では、いずれも重み付き係数が0.8以上であった。FTDでは、CDR® plus NACC FTLDの「行動、態度、人格」はSRI合計得点以外の全ての評価尺度、CDR® plus NACC FTLDの「言語」、global scoreはMMSE、WAB失語症検査の失語指数と有意な相関があった。反応性の検証では、CDR® plus NACC FTLDのsum-of-boxesで有意差があった。以上から日本語版 CDR® plus NACC FTLDの良好な信頼性・妥当性・反応性が確認された。

研究3：FTDにおけるため込みの実態とその要因の検証

CIRはFTDで平均(SD)：1.78(0.99)、ADで1.63(0.86)でいずれもカットオフの4を下回り、2群間で有意差はなかった。この理由として本研究は介護者がいる患者、もしくは入院している患者を対象としたことが考えられた。一方でカットオフを上回った症例が3例あったが、いずれも介護者に身体疾患があり、自宅の片づけが難しかった可能性が考えられた。また、CIRと認知機能検査、精神症状、CDR®、CDR® plus NACC FTLDの相関解析を行ったところ、FTDではCIRと食行動異常、ADでは易刺激性と有意な正の相関があった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 埜卒大喜、池田学	4. 巻 37
2. 論文標題 「久しぶりに訪ねてみたら、ごみ屋敷でした」 -bvFTDのためこみ-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 205-208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 埜卒大喜、藤本宏、三田駒子、池田学	4. 巻 33
2. 論文標題 「認知症初期集中支援チームの現状と精神科医の役割」ゴミ屋敷/令和3年度全国調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 811-816
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Taomoto D, Sato S, Kanemoto H, Suzuki M, Hirakawa N, Takasaki A, Akimoto M, Satake Y, Koizumi F, Yoshiyama K, Takahashi R, Shigenobu K, Hashimoto M, Miyagawa T, Boeve B, Knopman D, Mori E, Ikeda M.	4. 巻 24(2)
2. 論文標題 Utility of the Japanese version of the Clinical Dementia Rating plus National Alzheimer's Coordinating Centre Behaviour and Language Domains for sporadic cases of frontotemporal dementia in Japan	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 281-294
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/psyg.13072	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

[学会発表] 計7件(うち招待講演 0件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 埜卒大喜、末廣聖、佐竹祐人、中牟田なおみ、堀田牧、鈴木麻希、小泉冬木、佐藤俊介、鐘本英輝、和田民樹、吉山顕次、三好豊子、柏木一恵、繁信和恵、橋本衛、池田学
2. 発表標題 認知症初期集中支援チームの困難事例からみた高齢者のごみ屋敷の特徴
3. 学会等名 第41回日本認知症学会学術集会 第37回日本老年精神医学会 合同開催
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 埜卒大喜、池田学
2. 発表標題 認知症初期集中支援チームの認知症医療に果たす役割 認知症初期集中支援チームの困難事例について
3. 学会等名 第41回日本認知症学会学術集会 第37回日本老年精神医学会 合同開催
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Daiki Taomoto, Takashi Suehiro, Yuto Satake, Fuyuki Koizumi, Shunsuke Sato, Hideki Kanemoto, Tamiki Wada, Kenji Yoshiyama, Manabu Ikeda
2. 発表標題 Case series: older people with domestic squalor due to hoarding disorder and dementia
3. 学会等名 2023 International Psychogeriatric Association International Congress (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 埜卒大喜、西尾慶之、佐藤俊介、高崎昭博、竹田佳世、片上茂樹、佐竹祐人、末廣聖、鐘本英輝、和田民樹、吉山顕次、池田学
2. 発表標題 意味性認知症の意味記憶障害における親密度、カテゴリーの影響
3. 学会等名 第47回日本高次脳機能障害学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 埜卒 大喜, 佐藤 俊介, 末廣 聖, 小林 又三郎, 竹田 佳世, 片上 茂樹, 佐竹 祐人, 鐘本 英輝, 和田 民樹, 畑 真弘, 鈴木 麻希, 吉山 顕次, 池田 学
2. 発表標題 会話中によく笑う行動障害型前頭側頭型認知症の2例
3. 学会等名 第47回日本神経心理学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 埜卒大喜、佐藤俊介、鐘本英輝、鈴木麻希、佐竹祐人、小泉冬木、末廣聖、和田民樹、吉山顕次、高橋励、繁信和恵、森悦朗、池田学
2. 発表標題 日本語版CDR plus NACC FTLDの作成と信頼性・妥当性・反応性の検証
3. 学会等名 第42回日本認知症学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 埜卒大喜、西尾慶之
2. 発表標題 前部側頭葉と概念知識：意味性認知症と前部側頭葉切除術の対比
3. 学会等名 第47回日本神経心理学会学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------